
ハイヤーと私

城山達志

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハイヤーと私

【コード】

N2031W

【作者名】

城山達志

【あらすじ】

へミシンカーの私とその後ろの人ハイヤーセルフとの果てしない対話の物語。

明晰夢と記憶

明晰夢をよく見るようになったけど、起きるとほとんど何も覚えていないんだ。

正確に言つなら憶えてはいるけど、思い出せない。

いつも、モール（私が勝手につけた呼称。F21あたりの教育施設ならびにお店や交通機関の分岐点がある所）へ行っているみたいなんだけど、

そこで、何やら目的をもって行動しているようだ。

でも、今日は鮮明に憶えている。

お風呂に入っていたんだ。そうしたらバスタブに穴が開いて、水が漏れ出し始めた。

違う。こちら側にどんどん水が流れ込んでくるんだ。

とっさに異常事態を察知した。

いかん。炉へのパイパスがやられた。

炉を止めなければ、熱で風呂ガマがいかれる。

慌てて、炉のスイッチを切るが火はついたままだ。

クソッ、だめか。

ならばエネルギーを強制遮断だ。

なんとしても止めるんだ！

・・・と、いった具合に奮闘していた。

ハイヤー「記憶というのはそれ単体で存在しているわけではない。

それにまつわる感情とワンセットになっている」

ハイヤー「つまり鮮明な感情は、鮮明な記憶となって残りやすい。C1へ戻って来るときにそれを憶えていたならば、心の扱い方を知る必要がある。もっとも、君はすでに知識としては、それを知っているだろう」

蹟見冠氏のバーチャル記憶術？

ハイヤー「そうだ。君はその扱いをもてあましていたようだが、経験的に学ぶ方がよく理解できる。つまりはそういうことだ。思い出したければ、心のあり方を憶えておけば良い」

ありがとう、ハイヤー。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2031w/>

ハイヤーと私

2011年10月9日14時58分発行